

# ジャーナリズム公開講座

第7期第3回 6月27日(木) 18:30

常岡浩介 安田純平



## シリア報道とジャーナリストの責任

【つねおか・こうすけ】1969年生まれ。早大卒。NBC長崎放送報道記者を経て98年からフリー。アフガニスタン、チェチェン、イラク、シリア、ウクライナなどの戦争取材。武装組織の幹部や反体制派を直接取材した結果、各国の諜報機関や政府系組織に拉致・誘拐された経験がある。国内では北大生らの私戦予備陰謀事件に絡んで公安警察に自宅捜索され、被疑者宣告されている。著書に『イスラム国とは何か』『ロシア 語られない戦争—チェチェンゲリラ従軍記』、自身の経験を漫画化した作品に『常岡さん、人質になる。』。

【やすだ・じゅんぺい】1974年埼玉県生まれ。一橋大卒、97年信濃毎日新聞入社。2002年に休暇を取りアフガニスタンとイラク取材。03年退社しイラク戦争取材。04年4月、イラク日本人人質事件取材中、武装勢力に拘束され3日後解放。07年にイラクの基地建設現場や民間軍事会社で料理人として働きながら取材。12年からシリア内戦取材、15年6月にシリア北西部で武装勢力に拘束される。17年5月、山本美香記念国際ジャーナリスト賞特別賞受賞。18年10月、解放・帰国。著書に『シリア拘束 安田純平の40か月』『ルポ 戦場出稼ぎ労働者』『誰が私を「人質」にしたのか—イラク戦争の現場とメディアの虚構』等。

## 会場 静岡県教育会館 4階大会議室

静岡市葵区駿府町1-12 新静岡セノバから北街道を挟んで向かい  
駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

18:30~20:30 (18:15開場)

入場無料、申込み順先着100名 どなたでも参加いただけます。

## 第7期（2019年度）静岡県立大学ジャーナリズム公開講座

- 第1回 4月25日（木）中川淳一郎 ネットニュース編集者  
「ネット炎上のしくみと報道への影響」
- 第2回 5月30日（木）荒木肇 教育史研究者「歴史教育とマスメディア」
- 第3回 6月27日（木）常岡浩介・安田純平 ジャーナリスト  
「シリア報道とジャーナリストの責任」  
会場：静岡県教育会館4階大会議室
- 第4回 7月18日（木）今井一 ジャーナリスト  
「沖縄県民投票 その意義と私たちが向き合うべき課題」  
会場：B-nest（静岡市産学交流センター）6階プレゼンテーションルーム
- 第5回 8月1日（木）澤田克己 毎日新聞社外信部長「日韓関係の構造的変化」
- 第6回 8月29日（木）江川紹子 ジャーナリスト「オウム事件と死刑」
- 第7回 9月26日（木）相澤冬樹 大阪日日新聞論説委員・元NHK記者  
「森友問題報道にみるNHKと安倍官邸の関係」
- 第8回 10月24日（木）小川和久 軍事アナリスト、静岡県立大学特任教授  
「普天間基地問題はなぜ迷走したのか」
- 第9回 11月28日（木）小菅信子 山梨学院大学教授「戦争の記憶をどう伝えるか」
- 第10回 12月19日（木）楊井人文 ファクトチェックイニシアチブ・ジャパン事務局長  
「今年の誤報」
- 第11回 1月30日（木）安田峰俊 中国ルポライター「中国の素顔」
- 第12回 2月28日（金）河内敏康 毎日新聞東京本社医療福祉部副部長  
「医療ジャーナリズムの役割」
- 第13回 3月28日（土）林智裕 フリーランスライター  
「東電原発事故報道を巡るジャーナリズムの『正義』とエラー」

（敬称略）

静岡県立大学ジャーナリズム公開講座 受講申込書			
氏名	フリガナ		
住所	〒		
電話番号		職業	
E-mail / FAX		年齢	歳

お申込先はFAX:054-245-5603または [nishi@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:nishi@u-shizuoka-ken.ac.jp)  
電話:054-245-5600 前日までにお申込みできない場合、当日に受付で申込書にご記入ください。